

令和7年度 南丹市立 美山小学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 最終評価

学校・園教育目標	学校・園の現状分析		学校・園経営方針(中期経営目標)	
<p>「ふるさとを愛し 夢や希望に向かって 自らを高める 美山っ子の育成」【中学校ブロック】</p> <p>子どもが 大人が 生き生きしている学校</p> <p>《目指す児童像》 み 自ら考え、豊かに表現する子 や やさしく、思いやりのある子 ま まっすぐ伸びるたくましい子</p> <p>* 児童が生き生きと活動し成長することを、保護者・地域・教職員が手を携えて取り組む学校</p>	<p>○自然・歴史が豊かで穏やかな地域にあり、地域・保護者の教育力に支えられ、児童は落ち着いて学校生活を過ごせている。</p> <p>○与えられた課題に真面目に取り組む児童が多く、興味を追求したり、失敗を恐れずチャレンジしたりするなど主体的に取り組む姿が見られるようになってきている。その姿勢をさらに育んでいきたい。</p> <p>○徒歩通学の距離減少や、生活様式の変化、児童数の減少により、運動量の減少は否めない。自ら身体を動かそう思える環境構築が必要。</p> <p>○社会の変化に伴う、多様な価値観、考え方があ。他者の様々な考え方や有り様を受け止め、互いを尊重する気風をさらに醸成させていきたい。</p>		<p>○教職員・児童・保護者・地域、それぞれ、また、相互の対話を増やし、意思疎通を十分に図るとともに、他者を受け止め、互いをリスペクトする気風を育み、心理的安全性が高い学校を創る。</p> <p>○児童に寄り添い、それぞれの考えを尊重しつつ、個々の興味を引き出し、追求できる環境を整え、より良い生活・学びに対する主体的態度を育む。</p> <p>○地域・家庭・学校(児童・教職員)でめざす児童像・学校像を共有し、その実現に向けて付度なく対話できる関係を築き、学校を核に人が育つ場をつくる。</p>	
学校園経営の重点(短期経営目標)	成果	評価	課題	改善策等
<p>児童・教職員が生き生きと過ごせるよう、「まずやってみる」を軸に、保護者・地域とも対話を重ね、失敗を糧とできうる心理的安全性の高い学校経営を進める。</p>	<p>保護者・地域の方から、教職員が生き生きしている、と具体的な声をいただいた。目に見えるところまで来たことは大きな成果として捉えている。児童がチャレンジするに至るハードルも下がってきた感がある。</p>	A	<p>職員・児童ともに、目指すところをしっかりと共有し、それに向けて得意を生かした提案が出てくるようにしたい。</p>	<p>大人がチャレンジする場、児童がチャレンジする場をそれぞれ明確に提示し、具体的な場を設けていく。</p>
<p>10年後の美山を想定し、学校を核に地域・保護者・教職員で対話を重ね、今できうることを考え実践を重ねていく。</p>	<p>2月27日(金)の直接対話の場だけでなく、5,6年生の総合に関わって、児童と地域の方々も10年後の美山を想定した対話がなされた。</p>	A	<p>学校に関わってくださっている方とは対話の機会が増えてきたが、まだまだ限定されている。</p>	<p>イベント的に行う熟議だけでなく、普段の美山学の取り組みの中でも対話が促されるよう環境を整えていく。</p>
<p>「好き」を大切に、「得意」を活かす場面を常に意識するとともに、生活科や総合的な学習の時間を核とした「美山学」実践を通して、学びの当事者となるよう仕掛けていく。</p>	<p>10年後の美山に残したいもの・この取り組みが、地域の方の協力を得てずいぶん具体的な形になってきた。伴って児童の当事者意識は高まってきている。</p>	A	<p>「総合的な学習の時間」における学びのサイクル(PDCA)の回転を高める必要が出てきている。</p>	<p>本校の研究とも関連づけながら、自ら学ぼうとする、自ら動こうとする環境を整えていく。</p>
<p>教職員の学びが児童の学びと相似形となるべく、校内研修や職員会議等において、主体的・対話的になるよう進める。</p>	<p>『自ら学ぼうとする子を育む』ための研究に手応えが得られ始めた。</p>	B	<p>どのような環境を創れば児童が『自ら学ぼう!』となるか、誰でもわかるような説明が非常に難しい。</p>	<p>セルフデザイン学習の定義(位置づけ)を明確にし、授業デザインのあり方を学校として深めていく。</p>
<p>特支コーディネーターを軸に、美山小支援システムを構築し、ケースリストや子どもカルテの活用を図りながら、誰もが安心して過ごせる環境を整える。</p>	<p>特支コーディネーターを核として、支援システムが機能・定着してきた感がある。</p>	A	<p>ケースリストの活用や支援システムの成功例を認識・共有させる必要がある。</p>	<p>現在の取り組みを継続しつつ、より取り組みやすい形態等をチャレンジしていく。</p>